



新広報委員長に聞く

去る5月28日、第9回・社員総会が開かれ、異例の書面決議により新体制がスタートしました。本号では、新・常任理事に就任し新たに広報委員長となった塔筋幸造氏に、常任理事としての協会活動や今後の委員会活動に対する思いなどをお聞きしました。

ー まず、広報委員会の活動について伺います。

広報委員会の主な活動は、協会の会報「診断ひょうご」の発行、公式ウェブサイトサイトの運営などです。また、対外的な情報発信活動として、協会の紹介ビデオ（ウェブサイトに掲載）の制作、県下最大の展示会である「国際フロンティア産業メッセ」への出展、新聞・テレビなどの媒体に対する広報活動などがあります。

ビデオ制作や展示会の運営にあたっては、委員会や執行部メンバーにとどまらず、広く協会会員にも参加を呼びかけ、多くの方にも参画いただいています。

ー 委員会活動に対する基本的な方針はどのようなものですか。

中小企業診断士の役割とは、地元兵庫県や他府県に存在する中小企業、小規模事業者への経営全般、また、個別の事業に対する様々な支援や助言があり、他に、国や自治体を実施する各種の政策の実行部隊としての役割などがあると思います。

先の広報活動を通じ、内外の方々に対して広く「中小企業診断士」のこうした活動や役割、パフォーマンスを知らしめることによって、協会会員だけでなく多くの中小企業診断士の方々の認知・地位・評価を高めることだと考えています。

ー また、常任理事として協会活動にかかわることになりました。

常任理事は、会長・副会長らとともに協会として取り組むべき課題などを協議し、実効あるものとする責任を担っていると考えています。また、広報委員会や委員一人ひとりの意見や期待・希望などを執行部につないでいくパイプ役としての役割、更に、広報活動を

通じて得られた協会会員一人ひとりの思いなどを協会に伝え、具体化する役割などがあります。

「こうしてほしい」「このようなことがしたい」などの意見や希望があれば、気軽に声をかけてほしいと思います。

ー 新委員長としての抱負をお聞かせください。

広報委員会には有為な人材が多数います。それぞれの委員がその能力を存分に発揮していただき、よりよい委員会、協会を実現させたいと思います。そのため支援を心がけた委員会運営を目指したいと考えています。委員の皆さんも、どうか遠慮なく自身の思いを形にしてもらいたいと思います。

ー 最後に、自己紹介を兼ねて「特技」などをご紹介します。

写真を撮ることが好きで、協会の「写真同好会」の代表も務めています。最近は仕事が忙しく、なかなか撮影に出かける機会がありませんが、以前は国内・海外にまで足を伸ばして撮影をしていました。

今回は、南極に行ったときの作品を用意しましたので、見ていただきたいと思います。また、同好会会員も絶賛募集中です。興味のある方は、ぜひ参加してください。腕前は問いませんよ。



新しい生活様式に対応したコンサルティング(面談)のあり方

今年の冬、突然全世界を襲ったコロナ禍は、今なお猛威を振るい多くの人や企業の活動に多大な影響を与えています。しかし、一方では、その対応策についても徐々に有効性を発揮してきており、「新しい生活様式」とともに被害や犠牲者も少しずつですが減少しているように見えます。われわれ中小企業診断士も、こうした新しい生活様式に対応した活動が求められるようになってきました。

そこで今回、本誌編集部では、すでに明らかになってきているその方法について、いくつかを紹介していきたいと思います。本号では、非対面での対応が求められているコンサルティング活動について考えてみたいと思います。

■コンサルティングのための設備・環境について

非対面によるコミュニケーションの具体的な方法は、一般的にはテレビ会議システムやテレビ電話のようなものが考えられます。すでに多くの人が「Zoom」や「Teams」「Skype」などのシステムを使用したことがあると思います。

ここでは、こうしたシステムを利用する際に、より円滑なコミュニケーションをとり、有効なコンサルティングを実現させるために、設備や環境について適切な方法を考えていきます。

※Zoom、Teamsなど各社の製品名・ロゴ等については、それぞれ各社の登録商標または商標です。



1. 映像について

●カメラの解像度

通常の面談とは異なり、ネットを介しカメラで撮影された映像が自分自身の「姿」となります。ノートPCやタブレット端末、スマートフォンなどの情報機器には、ほぼ全てカメラが搭載されていますが、その使用方法などには多少の注意や配慮が必要となります。

解像度などについては、いずれの機器でも問題はないと考えられますが、デスクトップPCの場合、カメラは別に準備が必要です。解像度は「720p(HD)」以上を目安にすると良いでしょう。また、スマートフォンをカメラとして使えるアプリケーションも多数ありますから、使いやすいものを適宜選択すると良いでしょう。自宅や職場にはWiFi環境が整備されているでしょう

から、それらを利用してスマートフォンとデスクトップPC接続するのが簡単です。安定した接続を求めるのならUSBケーブルによる接続が確実です。

●カメラの位置

カメラのセッティングについては、「(カメラ)目線」と「背景(の映り込み)」に多少の配慮が必要です。テーブルや机に端末を置くと、カメラは人物を見上げるようになりがちです。相手側に届く映像は、逆に「見下されている」ようになり、適当ではありません。端末のセッティングは、やや高い位置、カメラの高さと人物の顔(特に目の位置)を揃えるようにすると自然な映像が得られます。

●光源の位置

また、光源の位置にも注意が必要です。仕事部屋やリビングの照明は、一般的には天井にあり、そのままだと人物の顔が暗くなることもよくあります。できれば、顔に照明が当たるよう、追加の照明器具を用意すると印象が大きく変わります。

また、日中の面談であれば、光源として、窓からの太陽光が利用できます。この場合、いわゆる「逆光」にならないよう、窓を横に見るようなセッティングが適当ということとなります。

●背景について

仕事場が背景として適当であれば、特に気にすることはありませんが、自宅で発信する場合は、背景には配慮をしたほうが良いでしょう。光源との関係でどうしても「生活感」のある背景になるような場合は、背景を消したり、ボカしたりする機能を使うこととなります。その場合、PCの能力(パフォーマンス)が低いと使えないこともあるので、事前にテストが必要です。

2. 音声について

音声を届けるためのマイクロフォンは、カメラと同じく端末に内蔵されたものや、スマートフォンに製品

として付属しているイヤホンにもマイクが搭載されており、これらがそのまま使えます。これも、デスクトップPCの場合には別途用意する必要があります。

どのマイクでも特に問題はないと考えられますが、念のため、使用に先立って自身の声が明瞭に伝わるかどうかの確認はしておくことをおすすめします。多くの人が参加するようなウェブ会議などでは、一人ひとりの声の音質の違いに気づくことと思います。ウェブ会議などへの参加機会は、最近では頻繁にあるでしょうから、自身の声が明瞭に届いているか、音質に問題がないか、メンバーに確認しておくといいでしょう。

3. 接続環境について

映像・音声は、メールやウェブサイト閲覧などに比べると容量が大きく、回線に対する大きな負荷となります。また、長時間の接続が前提となりますから、極端な遅延や切断が生じないか、予めテストしておく必要があるでしょう。

一般的には、無線より有線の方が良好な接続が期待できます。したがって、端末とルータ間はLANケーブルで、また、インターネットとの接続も携帯電話回線よりも光回線などを使用することが適当です。

■運用方法について

コンサルティングをインターネット経由で行う場合、対面での留意事項に加えて、ウェブ会議システム特有の留意事項が存在します。面談に比べると、相手と共有できる情報は限定的となります。たとえ映像・音声が付属していても、直接会っていない、という点はいつも意識しておく必要があります。

1. アイ・コンタクト

対面でのコミュニケーションとは異なり、カメラの位置とモニター(画面)の位置が完全に一致しないことから、相手の顔を見てもアイ・コンタクトがとれないことがよくあります。

相手からすると、いつも下を向いている、横を向いて話をしている、こちらに注意を向けていない、との印象を与えることになります。

普段以上にアイ・コンタクトには気をつけ、カメラに視線を向けることを意識して繰り返すことが必要となります。重要な事項の確認や、相手の意思確認などの際には、カメラに目を向け、しっかりと情報の共有ができるようにします。

2. オーバー・アクション

相手との意思の確認や合意の確認は、通常の面談であれば、言葉だけでなく相手の表情や手や体、頭の

動きなどから理解できる場合が多くあります。ちょっとした目の動きだけでも、合意が得られたか、まだ不満があるか、などが伝わることもあり、逆にそのような動きだけでも相手に意思を伝えることができることもあります。

ところが、ウェブ会議システムなどでは、そうしたわずかな動きが、画面からはなかなか捉えられなかったり、また、映像の画質・鮮明度から読み取れなかったりすることもよくあります。相手に対してははっきりと意思(合意のサインや理解できた/わからなかった)を伝えるためには、やや大げさな動きで気持ちを伝える必要があります。また、相手に対しても、必要に応じて確認をしっかりとる必要もあるでしょう。



3. タイムラグ

ウェブ会議システムでは、映像や音声のデータを受信した端末が処理をし、元の映像・音声に再生をします。端末のパフォーマンスによっては、その処理に時間がかかることもあり、実際の時間とは数秒のズレが生じることもあります。

その差は、通常の会話ではおそらく気づかない程度のズレになると考えられますが、例えば「ジャンケン」をしようすると上手く勝負できないということに気づくこともあります。双方のコミュニケーションに何かざこちなさを感じる事がある場合は、この「時差(タイムラグ)」を意識してみてください。

■機密情報について

事務所や自宅のように他に誰もいない状態が確保できるのであれば、それほど気にする必要はないと思います。しかし、インターネット環境を求めてコワーキングスペースやネットカフェ、喫茶店などを利用することは、周囲に情報が漏れることから避ける必要があります。これは今回のようなウェブ会議だけでなく、携帯電話での会話でも同様です。ちょっとした会話であっても、そこには固有名詞や数値、企業の戦略などに関わる重要な情報が含まれることは十分に考えられます。

外部での会話は、原則としてしない、と考えた方が良いでしょう。

現代の中小製造業におけるIoT利活用の実態と生産性向上支援のあるべき姿の調査研究

令和元年度の調査研究事業は「現代の中小製造業におけるIoT利活用の実態と生産性向上支援のあるべき姿の調査研究」でした。すでに、報告会や理論政策更新研修の場で概要をご紹介してきました。ここでは、そうした場でご紹介しきれなかった内容をお伝えします。

(令和元年度調査研究事業 メンバー・上大田孝)

兵庫県下の中小製造業を対象としたIoT利活用による生産性向上に関する調査・支援を通じて、生産性向上支援のあるべき姿について考察する

本調査研究は、IoTが中小製造業の生産性向上の観点から有効であるにも関わらず、浸透しない原因を追求すべく兵庫県下の中小製造業者、および彼らを支援する公的支援機関にヒアリングした。単なる技術調査だけでなく、実際に安価なIoT機器を使って、製造現場の生産性向上の観点から有効性を実証したのが本調査事業の特色である。



1. 中小製造業に対する現状把握

兵庫県下の中小製造業者を調査するにあたり、兵庫県商工会連合会職員(チーフコーディネーター)に協力をお願いし、各商工会会員企業の中から選定頂いた企業、および独自に追加した企業に対してヒアリングを実施した。

中小製造業者に対するヒアリングの結果、以下のような事実が判明した。

- 近年売上高や利益が順調に推移している中で、受注を断っている企業が半数存在
- 生産性を向上することが売上や利益の向上に直結する可能性がある

同様に、公的支援機関に対するヒアリングの結果、以下のような事実が判明した。

- 中小製造業企業に対して様々な支援を実行しているものの支援者側の製造業に対する知識が不足
- 課題の抽出が難しく、本来行うべき支援ができていないケースがある

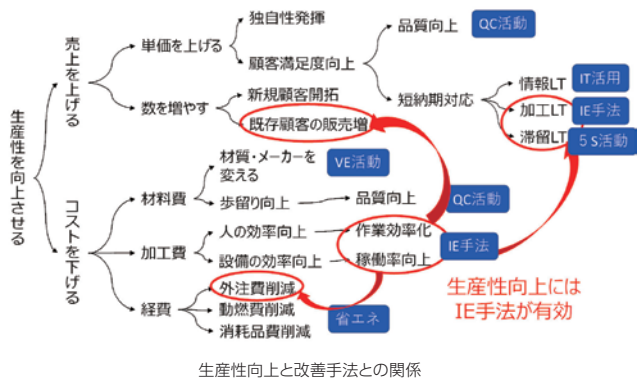
また、今後重点的に取り組むべき経営課題として、中小企

業と大企業の認識の差が大きい項目は、「カイゼン活動」である、と判明した。そこで、何をどのように「カイゼン」すべきかについて考察を行った。

2. 中小製造業の生産性向上のあるべき姿

生産性を向上させる、つまり「もうける」ためには、「売上高」をあげるか、もしくは「費用」を下げるか、あるいは両方を実現する必要がある。生産性向上を要素分解し、改善手法と関連づけることで、中小製造業の生産性向上のあるべき姿を検討した。

生産性を向上させる施策と改善手法は複数あるが、取り組むためには、人や時間が必要となる。しかしながら、中小製造業にとって新たに人材を採用するのは困難でありリスクも伴う。そこで「カイゼン」による徹底的なムダ取りにより、積極的に余力(人や時間)を創出し、創出した人や時間を、売上拡大やコスト低減などの生産性向上の施策に割り当てることで、結果として付加価値を向上させることが重要と提言し、具体的な改善手法として、IE手法を紹介した。



3. 中小製造業のIoT導入における課題

前述の改善手法を踏まえ、中小製造業のIoT導入における課題抽出を行なった。先の現状調査と同じく中小製造業者に対するヒアリング結果から、以下のような結果を得た。

- IoT導入で解決したい課題は「現場作業改善」「工程管理」「事務作業効率化」など
- IoT導入におけるハードルは「方法・効果がわからない」「導入金額が高い」など

「低価格での導入方法」や「具体的なイメージ・効果がわからない」ため、導入まで進めることができていないケースも

多く、中小製造業にとって、導入メリットとコストに大きな課題があることがわかった。

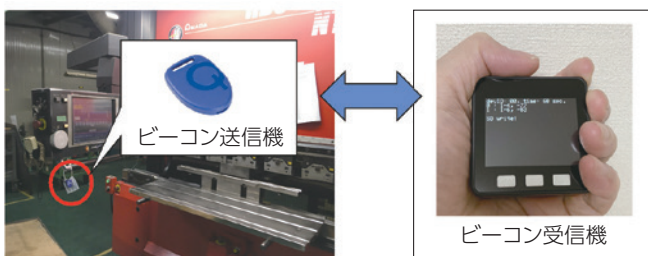
以上から、IoT導入の効果を定量的に表し、低価格で導入する方法を提示することができれば課題解決につながる、という仮説を得た。

4. 実証実験

中小製造業者に対するヒアリング結果より、前述のとおり、低価格でIoTを導入する方法を提示することで解決につながるのでは、という仮説を得ることができた。今回の調査研究事業の特色である、実際に安価なIoT機器を利用した実証実験について紹介し、IoTが生産性向上に寄与するための条件についても考察したい。

どのような職場を実証実験の対象とするか、という問題については、当初、設備稼働率向上による生産性向上をテーマにしては、という意見やニーズがあった。しかしながら、本事業を企画した際に、家内工業的な零細企業者にとっても参考になるのが望ましい、製造業に限定せず、小売・サービス業に対しても応用できるような内容にすべきといった意見や指摘があった。設備ありきの内容にしてしまうと、そのような零細企業者や製造業以外では参考にならない恐れがあった。そこで、人の生産性向上に着目し、IoTにより人の作業分析を効率的に行うことで、問題を見える化し、見える化したムダを徹底的に取り除く、といったストーリーで取り組むこととした。

実証実験は、従業員十数人規模の金属加工業者（プレス加工）の製造現場作業員に対し、ビーコンというIoT機器を活用することで、作業員の特定の地点間の移動距離や回数を分析し、距離がある地点間の移動は対象物を近づけるなどして、歩行のムダを減らすことで改善した。



今回の実証実験の対象職場の特徴から、IoTが生産性向上に寄与するための条件について考察する。対象職場は以下のような特徴があった。

- 普段から5S活動に全員参加で取り組んでおり、毎月の改善研修会で、自分が行なった5S改善の内容について一人一人報告していた。
- 最初から5S活動が活発だったわけではなく、5S活動により自分自身の作業が楽になる、といった小さな成功体験の積み上げにより、徐々に改善風土が醸成されていた。
- 改善結果について、定量的に把握する仕組み（1歩=1秒=1円など）があった。

仮に以上のような特徴がなかったとしたら、今回のような実

証実験をしても現場作業員は、自身が得をしたという成功体験がないため、特に目的意識もなくやらされ感を抱いてやった可能性が高い。改善効果を定量的に把握する仕組みがなければ、「IoTを導入した」という事実を成果と勘違いしてしまい、生産性向上＝「もうける」という本来の目的を達成することがなかったのではないかと推察される。また、今回の職場では、5Sに加えて簡単な座学やワークをとおしてIE手法についても学んでいたため、「IoTはIE手法による分析を効率化するためのツール」として理解してもらえた。

今回の実証実験では特定の地点間の移動距離や回数を分析し、距離がある地点間の移動は対象物を近づけるなどして、歩行のムダを減らすことで改善した。同様の改善の製造業以外での適用可否について考察する。

【小売】バックヤードからの商品棚出し

今回の実証実験と同様に、バックヤードと店舗内との往復が多い商品について、商品運搬・歩行の動線を分析する。分析結果に基づき、バックヤードの在庫は店舗との出入り口近くに配置する、一部補充用の在庫を店舗棚の最上部・最下部に配置する、などして歩行のムダをなくす。

【サービス業】旅館やレストランのホールスタッフの接客

小売と同じくホールスタッフの歩行のムダを減らす。ムダ取りにより創出した時間で、顧客との接客時間を増やすことで顧客満足度向上につなげる。

5. 最後に

今回の調査研究を通じて、IoT利活用による生産性向上のあり方について、以下のとおり提言する。

1. 5Sなどの改善の基本の徹底

IoT導入以前に、5Sができていないと、IoT導入で何かしら問題解決ができたとしても、せっかくの効果が他の問題で隠れてしまい、IoT導入の効果を実感することができない。故に、成功体験として蓄積されることがなく、改善風土が醸成されず、改善活動が持続せずに単発で終わる。支援者は、まずは基本的な5S活動から支援すべきである。

2. 改善効果の定量的な把握

効果を定量的に把握しなければ、費用対効果を求めることができない。IoTに限った話ではないが、費用対効果を求めることができないと、中小企業者は投資判断ができない。支援者は、自身のコンサル含め投資判断の対象と考え、改善効果の定量化に努めるべきである。

3. IoTは実際に使ってみる

支援者は、自ら知恵を出し、汗を流すことが必要であるが、IoTの場合もそれは当てはまる。誰でも支援者自身も使ったこともないような代物で実験台になりたくはない。

4. 小さな成功体験の蓄積による改善風土醸成

いずれは支援者に頼らずとも、企業自らが改善活動を継続できるよう支援すべきである。そのためには、企業自身が改善活動のメリットを理解するまで、支援者がやってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやる、を実践することが肝要である。

今年も国際フロンティア産業メッセに出展

9月3日、4日に、神戸国際展示場(神戸・ポートアイランド)で国際フロンティア産業メッセに当協会もブースを出展しました。6回目の出展となる今年はブースを配信スタジオにして、11人の中小企業診断士によるミニセミナーを開催しました。

オンラインによる参加者のほか、ブースで熱心に聴き入る来場者もあり、中小企業診断士と診断士のコンテンツをPRすることができました。当日の様子を写真で振り返ります。



機材を揃え、準備しています



セミナーで熱弁している様子です



多くの方が立ち止まって聴いていました



オンライン配信の様子をモニターで映しました



協会だより

去る5月17日、テレビ番組「しごとびと(サンテレビ)」で当協会の活動が紹介されました。同番組は、企業・組織のトップ、イベントの事業の仕掛け人や期待の人などを紹介するもので、湯浅新会長が番組に登場しました。

番組では、当協会や中小企業診断士の役割や仕事が実際の現場の声も交えて紹介され、中小企業診断士に対する認知・認識の向上に役立つものとなりました。

番組の内容はサンテレビ・公式サイト

(<https://sun-tv.co.jp/shigotobito>)で視聴することができます。

放送された動画

<https://www.youtube.com/watch?v=CcYEGTW4x-M>



ニュース

NEWS

■ コロナ対策のもと 理論政策更新研修を開催

令和2年度の「理論政策更新研修」は、去る8月22日・28日、9月12日に開催。当日は、コロナウイルス感染症予防のため、様々な対策が講じられましたが、受講者の協力を得て、大きな混乱もなく終えることができました。また、本年度は例年の会場、神戸市産業振興センターが改装工事であったため兵庫県民会館で行われました。

■ 県内で第一次試験を実施

例年、大阪府下で実施される「中小企業診断士第1次試験」ですが、本年度は3蜜回避の対策を講じるため会場の容量が不足となり、県下(神戸国際展示場)でも実施することとなりました。監督・補助員をはじめ、現場スタッフの多くを当協会の会員が勤め2日間の長丁場を乗り切ることができました。

■ オンラインセミナーを開催

テレビ会議やテレワークなど、オンラインでの業務が拡大する中、7月4日に当協会でもオンラインによるセミナーを実施しました。受講者はもちろん、スタッフや講師も自宅や自身の事務所などからネットワークに接続、テーマも「中小企業診断士のためのオンラインでの話し方講座」でした。

■ プロコン育成塾の塾生が200名を達成

毎年、多くのプロコンを輩出している「プロコン育成塾」が、8月22日開講しました。今回はコロナ対策を講じ、広めの会場や検温など万全の体制でスタート。今年は塾生200人を達成する記念の年となり、200人目にあたる吉田貴司氏には大場塾長より記念品が贈呈されました。

今後の予定

協会行事

| 日時 | 場所 | テーマ | 備考 |
|-------------------------|-------|--|---|
| 11月3日(火) 10:00~15:30 | Web会議 | 中小企業診断士の日特別イベント あたらしい生活様式に適合する中小企業の在り方(仮) | ・基調講演 ・ショートセミナー ・近畿ブロック会長 ・パネルディスカッション |

セミナー

スキルアップセミナー(会員研修委員会主催)

| 日時 | 場所 | テーマ | 講師 | 日時 | 場所 | テーマ | 講師 |
|--------------------------|--------------------------|-------------------------|-------|--------------------------------|--------------------------|-------------------|--------|
| 10月10日(土) 13:30-16:00 | Web会議 | 中小企業・小規模事業者のためのIT利活用促進術 | 川野太氏 | 12月5日(土) | 神戸市産業振興センター 802/803号室 | 働き方改革で進む テレワーク | 武田かおり氏 |
| 11月14日(土) | 神戸市産業振興センター 802/803号室 | ウイズコロナ・アフターコロナ時代の資金調達術 | 堀本修一氏 | ※連絡先:代表 伊藤 康雄 ito@clrstm.co.jp | | | |

入退会者のお知らせ

令和2年4月1日以降の入会者、退会者は以下の通りです。(敬称略)

入会者 伊達寛、西川和予、青木梨花、増岡一、大西規生、竹添晃、米田直樹、杉井敦史、山本大介、千崎栄治、前原隆功、石野稔、河原聡、秋田哲也、石田倫也、徳山和弘、小林道明、吉川恭充、徳田健作、清田峻吾、賀集亮介、山村昭、長縄真吾、塩川圭佑、吉村修二、坂下英樹

退会者 久保田稔、山本義明、瓜生行克、田畑一佳、大平洋平

委員会報告 6月～9月

● 広報委員会

| 委員会開催日 | 主な議題 |
|----------|--|
| 6月 9日(火) | 国際フロンティア産業メッセの実施について |
| 7月21日(火) | 国際フロンティア産業メッセの実施について 診断ひょうご10月号の企画について |
| 8月25日(火) | 国際フロンティア産業メッセの実施について 診断ひょうご10月号進行状況について |

・協会の公式パンフレットの改訂を進めています。
・国際フロンティア産業メッセでは、Zoomによるセミナー配信を実施しました。会場並びに外部から配信し、参加者はパソコン・タブレット端末などで視聴しました。

● 受託委員会

| 委員会開催日 | 主な議題 |
|----------|-----------------|
| 6月10日(水) | 今年度末の受託実績予測について |
| 8月13日(水) | 今年度末の受託実績予測について |

・4月22日より実施しました神戸市セーフティネット保証窓口対応業務が7月17日をもって終了しました。ご対応いただいた会員の皆様にお礼申し上げます。
・令和2年度も会員皆様のご協力をいただきまして、8月現在で今年度末受託予想金額は5千万円強となっています。今後とも、何卒ご尽力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

● 総務委員会

| 委員会開催日 | 主な議題 |
|---------|---|
| 6月2日(火) | 総会の振り返り、理論政策更新研修、新入会員ガイダンス |
| 7月7日(火) | 新入会員ガイダンス、理論政策更新研修、経営診断実務研修 |
| 8月4日(火) | 経営診断実務研修、中小企業診断士の日イベント、理論政策更新研修 |
| 9月1日(火) | 理論政策更新研修(振り返り)、経営診断実務研修、新入会員ガイダンス、中小企業診断士の日イベント |

理論政策更新研修1回目(136名参加)、2回目(141名参加)、3回目(147名参加)を実施しました。

● 会員研修委員会

| 委員会開催日 | 主な議題 |
|----------|---|
| 6月22日(月) | ・スキルアップセミナー、オープンセミナーの企画再検討 ・調査研究事業の進め方について |
| 7月27日(月) | ・スキルアップセミナー、オープンセミナーの企画再検討と進捗状況確認 ・調査研究事業の状況確認 |
| 8月24日(月) | ・スキルアップセミナー、オープンセミナーの企画再検討と進捗状況確認 |

令和2年度のセミナー企画案については、本年2月から企画検討を重ね、一定の方向性を確立していました。しかし、その後コロナウィルスの問題が発生したために、企画案の大幅な練り直しをしました。その過程で、ウェブによる開催の比率を増やすなど、現下の状況に応じた事業推進に努めています。

研究会スケジュール

問い合わせ先：078(362)6000

コロナウイルス感染症対策のため、今後、大幅な予定変更が考えられます。念のため、開催日程については各研究会にお問い合わせください。

● 診断技術向上研究会

| 日 時 | 場 所 | テ ー マ | 講 師 |
|-----------|------------------|---|-----------------------------------|
| 10月 8日(木) | 神戸市産業振興センター906号室 | 「過去の支援実績と皆様への応援メッセ」 | 兵庫県立大学大学院 経営研究科 非常勤講師 大森啓司氏 |
| 11月12日(木) | 神戸市産業振興センター804号室 | 潜在ニーズから考える 製品・サービス開発 ～「デザイン思考」のアプローチ～ | 鯉谷友樹氏 |

※開催日：原則第2水曜日 時間：18:30～20:30
※連絡先：代表 楠田 貞康(くすだ たかやす) tkusuda2002@gmail.com

● HOO経営研究会

| 日 時 | 場 所 | テ ー マ | 講 師 |
|-----------|--------------|-------------------------|-------------------------|
| 11月17日(火) | 神戸市勤労会館404号室 | コロナショックと 中小企業の勝ち残り対策 | 嶋 博夫氏 指尾成俊氏 高橋秀仁氏 |
| 1月19日(火) | 神戸市勤労会館404号室 | コロナショックと 中小企業の勝ち残り対策 | 伊藤勢津子氏 中島和樹氏 |

代表 福島 繁 ※開催日：原則奇数月第3火曜日 時間：18:30～20:30
※連絡先：加藤 慎祐 MLD11291@nifty.com

● 青年部会

| 日 時 | 場 所 | テ ー マ | 講 師 |
|----------|-------------------------|--------------------------------|---------------|
| 10月5日(月) | 神戸市産業振興センター or Web会議 | ①プレスリリースの極意 ②情報共有&議論 | ①井上陽介氏 ②全員 |
| 11月9日(月) | 神戸市産業振興センター or Web会議 | ①診断士開業の歩み ②情報共有&議論 | ①岸本圭佑氏 ②全員 |
| 12月7日(月) | 神戸市産業振興センター or Web会議 | ①コンサルティングファームの仕事術② ②情報共有&議論 | ①廣田有樹氏 ②全員 |

※開催日：原則第1月曜日 時間：19:00～21:00
※連絡先：青山 雄一郎 aoyama@kig.blue ※参加資格：49歳以下の会員

● 事業性評価研究会

| 日 時 | 場 所 | テ ー マ | 講 師 |
|-----------|-------------|--------------|----------------------|
| 10月26日(月) | 神戸市勤労会館406号 | 会社の破産手続きと流れ | 弁護士 中小企業診断士 中村 真氏 |
| 11月24日(火) | 神戸市勤労会館406号 | 講師を招いて講演(予定) | 未定 |
| 1月25日(月) | 神戸市勤労会館 | 講師を招いて講演(予定) | 未定 |

※開催日：毎月第4月曜日 時間：18:30～20:30(4、8、12月除く)
※連絡先：代表 西口 延良 ANC11775@nifty.com

● 地域産業活性化研究会

| 日 時 | 場 所 | テ ー マ | 講 師 |
|----------|------------------|--------------------------|-------|
| 10月7日(水) | 神戸市産業振興センター601号室 | 加東市観光調査&商工 会議所向け企画の検討 | 研究会全員 |
| 11月4日(水) | 神戸市産業振興センター804号室 | 加東市観光調査&商工 会議所向け企画の検討 | 研究会全員 |

※開催日：原則第1水曜日 時間：18:30～20:30
※連絡先：代表 大場 一正 kohba@alles.or.jp

● プロコンスキル研究会

| 日 時 | 場 所 | テ ー マ | 講 師 |
|----------|-------------|----------------------|-------------------|
| 11月9日(月) | 神戸市産業振興センター | 支援事例等による実践 スキルの研鑽 | ①松本泰良氏 ②岡崎永美子氏 |

※開催日：原則奇数月の第2月曜日 時間：18:30～20:30
※連絡先：橋本 祐樹 info@t-keiei.jp
(参加はプロコン育成塾修了者と講師に限ります)

● Shobai Lab.(商業研究会)

| 日 時 | 場 所 | テ ー マ | 講 師 |
|-----------|--------------|--------|--------|
| 10月15日(木) | (株)けいえいまち事務所 | 支援事例紹介 | 伊藤勢津子氏 |

※会場所在地：西宮市馬場町3-20-2F(最寄り駅：阪神西宮)
※開催日：毎月第3木曜日 時間：18:30～21:00(8月は日程変更の可能性有)
※連絡先：代表 木之下 尚令 info@ut-mana.jp

● ものづくり&SCM研究会

| 日 時 | 場 所 | テ ー マ | 講 師 |
|----------|-------------|----------------------------------|------------------|
| 10月3日(土) | 兵庫県民会館 | 経済産業省の施策解説・他 | 経済産業省 製造産業局課長 |
| 11月7日(土) | 神戸市産業振興センター | ①地上最大の行事万国博覧会 ②ものづくりとSCM関連の発表 | ①脇本規睦氏 ②未定 |

※開催日：原則第1土曜日 時間：14:30～17:00(1、5、8、12月除く)
企業内・独立問わず、幅広い情報交換を目指し、現場見学も取り入れています。
※連絡先：三村 光昭 QZE02753@nifty.com

● HRM研究会(Human Resource Management 人的資源管理)

| 日 時 | 場 所 | テ ー マ | 講 師 |
|-----|-------|-------|-----|
| 不定期 | Web会議 | | |

※開催日：原則第1火曜日 時間：19:00～21:00
※連絡先：瓶内 栄作 e-kameuchi@plus-logista.com
※本年度は不定期開催(オンライン主体となっております。)

※各スケジュールは変更になることがあります。

編集後記

コロナ禍の中、当協会では9月の展示会の企画を大幅に変更し、オンラインで参加できる仕組みを導入しました。このような形で出展したことで、多くの企業・自治体・支援機関の方々から関心の声をいただきました。私たち中小企業診断士は時流を先取りし、自治体・支援機関の皆様とともに企業の羅針盤になり続けて参ります。(稲)